た。同期のメートをもとめて各組のリーダーにコンタクトを頼んでおいた。その効あってその場で合同クラス会が成立、同窓会パーティ後はクラス会のパーティとなった訳で、用意したのが六本木寄りのフランス料理の店だった為、全員ゴキゲンで散会するのが惜しかった。後日人妻となったメートより礼状が何通も来たのは予想外の喜びであった。仲間は多い方が良い、人と会う事は楽しい事だ。皆さんもそう思いませんか。

永田貞子先生をお訪ねして

青葉会顧問　石関力太郎

十一月初め、私は連休を利用して、最近転勤したばかりの娘毛を大阪豊中市を訪問した。初めていく所についてはどんな所であろうかと地図を求めて調べるのが楽しみの一つである。出発前、豊中市の地図をみていると、千里とか、桃山台という珍しい地名が目についた。そこでふと思い出したことがある。それは旧制の卒業生から五十周年記念の日には、昔の恩師に案内状を出してほしいと要望があり、その封筒書きをして、確に大阪の千里にお住いの先生がおられたことを思い出した。あらためて名簿を開いてみると、千里におられるのは当時音楽を教えておられた永田先生であった。早速教頭先生にお話し、記念誌、記念品、同窓会名簿「ともがき」一、二号等をお届けすることにした。

お達者でいらっしゃるかどうか必配であったが、前夜お電話を申し上げたら「泊りがけで出掛けているが、明日は帰る」とのことであった。翌朝、卒業生に代ってお会いに出来るのを楽しみにバスに乗った。阪急近大線は都心から地下鉄が乗入れしている便利な電車だが、そこに桃山台駅という駅がある。周辺には高級マンションが、立並び、高低起伏のある秋色の美しい閑静な地であった。目指すマンションはすぐに見つかった。受付で挨拶をし、エレベーターで五階に上る。ブザーを押すと声があって、先生ご自身玄関に出られた。八十を超しておられるが、想像していたよりずうとお若くお元気なお姿、学校と同窓会から預って来た品を手渡し、現在の三田高校のこと、五十周年記念関係のことなどお話し申上げた。大変懐しく喜ばれているご様子であり仲々話しは尽きなかったが、大阪に出向く途中お寄りした旨申上げ、失礼した。

其の後間もなく先生からお便りをいただいたのでその一部をご紹介します。

（前略）さて此度は細やかなお心遣いに与りまして御電話やら態々御来訪まで賜りましていろいろ名簿、記念誌、記念品など私にとりましても過ぎし日のなつかしい思出の品をお届け下さいまして誠に有難う存じました。不束な私が只音楽の時間丈をお手伝い致しまして何の役にも立ったわけではございませんが生徒さん方の御熱心さに感激させられる事のみ多かった様に存じます。昼間の方でもだんだん戦争が烈しくなりまして動員で音楽の授業などなくもがなの状勢となり十九年に第六高女を退職致しました。存じ上げている先生方も御逝去が多く武田先生松田先生などお名前を拝見しておなつかしく存じました。厳しい戦時を乗り越え本日の御隆盛ご関係の先生方はじめ同窓生の御苦労も一と方ならぬものと存じ上げます。撫子の花に似通う校章は本当になつかしい想でございました。一回生としての教子だった高橋百合子さんの記事も興味深く拝見させて頂きました（後略）

（付記）　高橋百合子先生は昼間の第一回の卒業生で長く全日制で教鞭をとっておられましたが、昭和三十八年から定時制に移られ五十三年退職されてからも講師として家庭科の指導に当られています。

思い出話

河野先生

（華道班嘱託）
43年卒
大沢秋子
旧姓（渡辺）

河野先生との出会いは、高校二年の新学期に華道部へ入部した時でした。とても物静かに話され、いつもお着物をお召しになっていらっしゃったのが印象的でした。

授業が終るのが9時、それからがクラブ活動の時間、花器、剣山、ハサミ等を理科室へ運び始めて、小原流儀にしたがってお花を生けるのです。それはとても心を静め、枝と花と花器のバランスの難かしさをはじめて実感をもって体験したことでした。生け終り先生に評価して戴く時などは、胸が高鳴りっぱなし、先生はじっとみつめたかと思うと枝を引き抜き、いらない枝は落しましょうと、バサバサと切ります。ああ、もったいない、なんていっている間に、枝、花を切って剣山に差すと、それはみごとな曲線、流線の美が花器との調和でぴったりなのです。切り取られた枝、花は家へ帰ったら一輪差しにして飾って下さいとの教えにしたがって、今では一輪の花の床しさに心ひかれて絶えることはありません。三年生の秋。文化祭のことは、昨日のことのように思い出されます。前日、教室に、色々なお花が生け終り〝晩秋〟と題して先生始め部員皆さんの合作の生け花ができあがり、一段と華やいだことでした。そして、当日、豪華ではないが、私達の精一杯の努力が生けてあり、花も生々と咲き誇っていました。

先生には、毎週ご遠方から来て載だき、わずかな月謝で帰りのタクシー代にも足りないのを、クラブのためにと教えに来てくださったこと、感謝にたえません。卒業して十二年というとしつきが過ぎ去りました。その間、私は今、二児の母となり、子供の成長に一喜一憂しながらも、これからの人生を悔いることのないように、過したいと思っております。

山内さんをしのんで

29年卒
神崎敬子

私達のクラスは卒業以来、毎年欠かさず集って居ります。少ない時でも十人位は必ず集りますので、総員四十名の住所は殆んどわかっていますし、常に顔を見せる人達は家族の様なお付合いが続けられています。

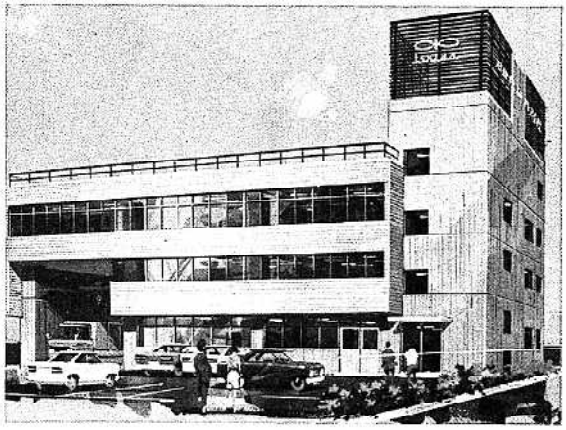
私達の年度が、新制高校男女共学になった初めての年でした。そのせいか、どうして卒業以来毎年クラス会を続けることが出来たのではないかと思います。

男子がクラスの三分の一をしめていたことと、その男性の中に春になるとクラス会の会場探しや、連絡にマメに走り廻って、まとめてくれた人が居たからだと思います。

その用意万端を整えてくれた貴重な人がほかならない、この山内昇（旧柴山）さんでした。ところがその山内さんが今余りにも突然に、未だ働き盛りのこの年今でその人は去っていかれました。ただ唖然と運命のいたづらに途方にくれている処です。

今年のクラス会には山内さんの笑顔のお写真を飾り賑やかに集りました。これからは皆んなの手で伝統（?）ある四組のクラス会が続けられることでしょうし、またそれが同期会や同窓会へと拡がってゆけば、何処かできっと山内さんが微笑をうかべ乍う級友を見守りつつ喜こんでくれることと思います。

今はなき山内さんのご冥福をお祈りしながら来年のクラス会を鶴首しているところです。


本社全景

営業案内

●省力化自動機器　●医療機器
●特殊梱包機　●特殊事務ファックス
●その他精密機器

技術のマーク　設計から製作まで
石田技研株式會社
〒144 東京都大田区羽田旭町1－1
TEL 03（744）2211（大代表）